ウェビナーへのご招待

ベトナムの生産性動向と残された課題

このままでは「中所得の罠」を突破するのが困難な理由と解決法の提案

ベトナムは 80 年代以降のドイモイ自由化、90 年代以降の対外開放により、市場移行と外資主導型工業化をかなりの程度達成しました。インフラが整備され、工業輸出は伸び、街も近代化し、30 年前とは隔世の感があります。アフリカを含む他途上地域からは、ベトナムに学べという声さえききます。しかし、ベトナムの経済社会と長くつきあってきた我々にとって、これまでの成果は必ずしも手放しに喜べるものではありません。生産性、技術、競争力といった民間部門の質の向上よりも、外からの投資や資金、内では資産バブルや公共投資・国営企業によって経済の量的拡大が進みました。かつてベトナム人は「勤勉で手先が器用」と称賛されましたが、それから四半世紀たち、賃金が上昇しつつある今、それを越えるベトナムの次のアドバンテージがまだ見えてきません。一世代で貧困から高所得へ、労働集約型輸出からハイテクへと駆け上がった台韓シンガポールなどとは異なるようです。ベトナムの党や政府もこの問題を認識しており、国家の重要課題として生産性が議論されています。

GRIPS 開発フォーラム（GDF）とハノイの国家大学ベトナム経済政策研究所（VEPR）は、ベトナム政府の参考に供するため、「ベトナム生産性レポート」を作成しました（在越日本大使館、経産省、JICA の支援）。最終データの更新を待って 2021 年初めに正式公表する予定ですが、内容的にはほぼ完成しています。今回、レポートを監修した本学の大野健一によるプレビュー報告、および日越双方の政治経済社会に造詣の深いトラン・ヴァン・トウ早稲田大学名誉教授によるベトナムの現状と課題を考える、二本立てのウェビナーを企画しました。

日時　2020 年 10 月 27 日（火）　15:00～16:30　Zoom 使用

講師　大野健一教授（政策研究大学院大学）、トラン・ヴァン・トウ名誉教授（早稲田大学）

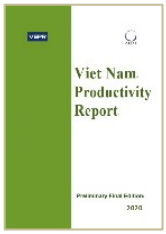
言語　日本語のみ

進行

15:00	開会の辞
15:05 – 15:35	大野健一 「ベトナム生産性レポートのハイライトと新たな産業協力の可能性」
15:35 – 16:05	トラン・ヴァン・トウ 「ベトナム経済の発展課題」
16:05 – 16:30	質疑応答＆討議

申込　前日までに、GRIPS 開発フォーラムの鶴田静妹（s-tsuruda@grips.ac.jp）に、お名前と所属先、ZOOM 招待メールの送付希望アドレスを明記のうえメールでお申し込みください。開催日当日の午前中に招待メールをお送りします。

大野健一教授。スタンフォード大 PhD。国際通貨基金、筑波大、埼玉大をへて GRIPS 教授。アジア・アフリカで産業政策のつくり方を比較研究。1995 年より石川プロジェクトに参加しベトナム研究開始。2004 年、ハノイに「ベトナム開発フォーラム」（VDF）創設。裾野産業、二輪・四輪政策、工業化戦略などに参画。



ベトナム生産性レポート暫定版（2020）。パート 1 で労働生産性と TFP のデータ分析、国際比較、生産性政策レビュー。パート 2 で日本の生産性ツールと海外における展開例の紹介、ベトナムへの導入可能性を検討。最終版は 2021 年初めを予定。

トラン・ヴァン・トウ名誉教授。ベトナム・クワンナム省出身。一橋大 PhD。日本経済研究センター、桜美林大をへて早稲田大学社会科学総合学術院教授。ベトナムや ASEAN の著書多数。キエット元首相・フック現首相の経済顧問を務める。日越の多くの審議会・委員会・客員教授等を歴任。2020 年春、早稲田大を退官。

グェン・ドゥック・タイン博士（レポート共同執筆者、セミナーには出ません）。GRIPS で PhD。帰国後ベトナム国家大学で研究所（VEPR）を設立。ベトナム年次経済報告を毎年発表。自由に発言し、メディアに多く出演。若手研究者を育てる。ズン前首相経済顧問。フック現首相にもアドバイス。

レポート暫定版（英語）のダウンロードは以下

https://www.grips.ac.jp/forum/pdf20/[EN]VNProductivityReport_PreliminaryFinal2020_0904.pdf